

議事録

平成28年度 第1回小樽市総合教育会議		
開催日時	開催場所	
平成28年11月10日(木) 16:00~17:50	小樽市役所本館2階市長応接室	
出席者		
(構成員)	小樽市	市長 森井 秀明
	小樽市教育委員会	教育長 林 秀 樹
		委員 笹 谷 純 代
		委員 小 澤 倭 文 夫
		委員 荒 田 純 司
	委員 常 見 幸 司	
(事務局等)	小樽市	小樽市教育委員会
	総務部次長 石坂 康雄	教育部長 工藤 裕司
	総務部企画政策室長 伊藤 和彦	教育部次長 吉岡 宏幸
	企画政策室主幹 安部 俊克	学校教育支援室長 中島 正人
	企画政策室主査 亀田 直澄	教育総務課長 飯田 修二
		教育総務課総務係長 安藤 英明
※傍聴者数 0名		
議題：「新年度に向けての本市教育行政について」		

— 会議内容 —

総務部次長	<p>それでは、皆様おそろいでございますので、ただ今から平成28年度第1回小樽市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>まず、本日の会議に先立ちまして、本会議の構成員でいらっしゃる教育委員の方に交代がございましたので、御報告をさせていただきます。去る10月17日、末永委員の任期満了に伴いまして、翌18日に後任として常見委員が就任されましたので、改めましてこの場をお借りしまして御報告をさせていただきます。</p> <p>それでは、要綱に従いまして、これ以降の進行を市長にお願いしたいと思います。</p> <p>市長、よろしく願いいたします。</p>
市 長	<p>市長の森井でございます。本日はこのようにお忙しい中、また、大変足下の悪い中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、常見委員におかれましては、新たに就任していただきましてありがとうございます。子供たちのために、ともに取り組んでいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p>

<p>(市長)</p>	<p>本日の会議は私の方で進行させていただきます。つたない部分があるかもしれませんが、円滑に取り組めるよう努力してまいりたいと思っておりますので、どうぞ皆さんよろしくお願いたします。</p> <p>では、議題に入ります前に、まず、私の方から今年度、平成28年度の教育予算について、振り返ってお話させていただきたいと思います。</p> <p>まず、今年度の当初予算においては、重点施策として、皆さん御存知のように昨年10月に「小樽市総合戦略」を策定したところでございます。その総合戦略の中でプロジェクトの一つであります「樽っ子プライド育成プロジェクト」におきまして郷土愛あふれる優秀な「樽っ子」を育成していくための予算を重点的に措置いたしました。</p> <p>例えば、ICT教育の促進に向けまして、小学校へのデジタルテレビの配備を進めているほか、以前から取り組んでおりますイングリッシュキャンプ、さらには、今年度においてはALTを2名から4名に増員をさせていただきました。本市のグローバル化を担う人材育成に向けて、英語教育の一層の充実を図っているところでございます。</p> <p>また、予算には直接関連していませんけれども、本年5月に北海道科学大学との連携協定を締結させていただきました。小樽商科大学とも既に連携をさせていただいているところでございますが、この中で、地域における児童・生徒への学習支援を充実させるための取組などについても、今、進めているところでございます。</p> <p>今後におきましても、小樽の若い人たちが郷土を愛し、そして、いつまでも腰を下ろして安心して暮らしていくためには、学校での教育はもちろんですけれども、生涯にわたる学習機会の提供も私たち行政の大切な役割であると考えております。</p> <p>これからも私といたしましては、やはり市長部局と教育委員会の連携をより密にし協力してまいりたく、本日の会議を有意義なものにするために、議題にございます「新年度に向けての本市教育行政について」、皆様と意見交換をしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、まず、議題に入ります前に、工藤教育部長からこれまでの主な施策の取組状況について、説明をお願いしたいと思います。</p> <p>では、教育部長、お願いします。</p>
<p>教育部長</p>	<p>それでは、教育委員会の主な施策の取組状況につきまして、学校教育と社会教育に分けて御説明を申し上げます。</p> <p>はじめに学校教育の分野ですが、まず、学力向上への取組に関連した2項目について、お話させていただきます。</p>

(教育部長)

一つ目は「ICT教育の促進」についてです。平成27年度は国の交付金を活用し、小学校4年生から6年生のすべての普通学級に大型デジタルテレビと実物投影機を配備するとともに、小学校全学年、全教科で使えるデジタル教材を導入し、研修会やICT支援員の派遣によって、授業改善を図ってまいりました。

本年度も小学校1年生から3年生の普通学級にテレビを配備していただき、これを活用した教員研修などで、引き続き、授業改善に取り組んでいるところでございます。

二つ目は「学校図書館の充実」についてです。平成25年度から2名の学校図書館司書を配置し、配属された学校では、図書館に常時、司書がいることから、子供たちの利用も格段に増えており、授業との連携により、学習効果も出ております。一方で蔵書の不足を補うため、市立図書館では学校巡回やスクールライブラリー便により支援を進めております。

そのほかに学校教育では、「ふるさと教育」など社会との関わりを学ぶ取組があります。

平成27年度から、小中学校に踊りの先生を招いて、子供たちが潮音頭の振り付けを学ぶ事業を実施しており、50回目となった今年の潮まつりでは、全校がねりこみに参加するという大きな効果がありました。

また、子供たちが観光案内を体験する「おたる案内人ジュニア」が有名になってきておりますけれども、各小中学校では学校の外に出て、地域で学ぶ「体験的な学習」を推進しております。

このほかにイングリッシュキャンプや外国人英語講師ALTを増員するなど子供たちが国際化社会に対応できるための取組も進めております。

学校教育分野の最後は、「特別支援教育の充実」についてです。

平成25年度から「特別支援連携協議会」により、教育、福祉、保健、医療等と特別支援に関わる情報共有などの連携を図ってきておりますが、小中学校では特別支援学級に在籍する児童生徒のほかにも、LDやADHDの児童生徒の学習活動をサポートする特別支援教育支援員を配置してございます。

また、稲穂小、潮見台小、菁園中に言語の通級指導教室を開設し、指導に取り組んでいるところでございます。

次に、社会教育の分野ですが、まず、学校教育に密接に関連いたしますが、「家庭教育の充実」についてです。

平成27年度から生涯学習プラザを拠点に、「家庭教育支援事業」として、地域の人材を活用した家庭教育支援チーム「小樽わくわく共育ネットワーク」を立ち上げ、子育て情報の発信、家庭教育講座、親子向けイベントなどを実施して、家庭教育のサポートをしております。

<p>(教育部長)</p>	<p>次に、文化・スポーツ振興についてですが、社会教育施設では、総合博物館、文学館、そして美術館では特別展や企画展の開催、図書館では、「市立小樽図書館創立100周年記念事業」を行ったところでございますけれども、日々、それぞれの分野において文化振興に取り組んでいるところでございます。</p> <p>また、総合体育館や手宮陸上競技場などの体育施設を中心として、市民の健康増進や子供たちがスポーツに親しむきっかけづくりのため、スポーツ教室などのイベントを開催するなどスポーツ振興に努めているところでございます。</p> <p>以上、現在進めております主な施策の取組状況につきまして、御説明申し上げましたが、教育委員会といたしましては、引き続き、市長部局に御支援、御協力いただき、学校や社会教育施設の整備に努めながら、将来の小樽を担う人材の育成や市民の文化向上などに取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。学校教育と社会教育、それぞれの分野での主な施策の取組状況を大きく6項目説明いただきました。いずれも本市の人材育成や文化の向上にとって大事な施策であると感じているところでございます。</p> <p>それでは、ただ今説明ありました施策も含めて、各委員の皆様から、本市の教育における、例えば、課題ですとか今後の方向性などについて、御意見を伺ってまいりたいと思います。</p> <p>それではお一人ずつお聞きしていきたいと思いますが、まず笹谷委員から御意見を伺いたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>笹谷委員</p>	<p>私としましては、やはり読書について一番最初に支援をしていただきたい、非常にいろんな意味で大切なものであると思っております。</p> <p>小樽市では読書週間をはじめ、学校図書などで、いろいろな工夫をいただいておりますが、なかなか読書の時間が取れていなくて、スマート7（セブン）という取組がありましたが、そういった（スマートフォン使用）時間を読書の時間に回せないものか、と思っているところです。</p> <p>今、図書館司書が2人専任でいますけれども、やはり、常時、司書がいるということが非常に大きな効果があるようで、ある中学校のデータでは、司書の方がいた年度では貸出しの冊数が2,000冊を超えていたのが、いなくなると1,000冊台、約半分に落ち込んだというデータもあります。また、ある小学校では、司書の方が図書室で子供たちといろいろな話をする中で、その子供たちを本があるところに連れて行って、「こんな本があるんだよ」</p>

<p>(笹谷委員)</p>	<p>と声を掛けると、その本を借りていくという話も聞きますので、やはり司書を増やしていただきたいと思います。</p> <p>2校当たり1名の司書配置ができるよう、地方交付税が措置されているということでありますので、あと8名増員して、司書を10名配置していただけたらと思います。</p> <p>また、学校図書館をより充実したものにするために、市立図書館からもスクールライブラリー便をはじめ、いろいろな協力をしていただいておりますけれど、より充実したものにするためにも、ぜひ専任の学校図書館との連携を主な仕事とする職員を配置していただいて、いろんな専門的なアドバイスや継続的な支援をいただきながら、そして、常に司書がいる学校図書館にしていただけたらと思います。</p> <p>もう一点、社会教育の分野になりますが、家庭教育支援事業というものを昨年度から教育委員会で始めましたけれども、子育てをしていく中で、昔と違って、今は核家族の中で母親が一人で非常に悩んで子育てをしている状況があります。家庭教育力の低下と言われて久しくなりますけれども、それ以外にも例えば健康面や福祉など、いろいろな面で子育てをしていくと悩みや困り事がたくさんあるわけです。そんな中で行政が縦割りでそれぞれ独立していて、困った時にどの課に相談に行っているのか、自分では判断できませんので、行政側で横でつながってもらいたい。困ったときにここに行きさえすれば解決できる、そういう行政側の横のつながりの実現をお願いしたいと思います。以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>私自身も読書環境を整えていくことが非常に重要だと思っております。やはり学力における原点は、字を読む、本を読むということにあると思っております。これを推奨することによって、子供たち自身の学ぶ意欲や心の豊かさなどに大きく結びつくと考えておりますので、そうした取組をより高めてまいりたいと意識をしているところでございます。</p> <p>「学校図書館司書を現在の2名から8名増員し、10名に」というお話ですが、一遍にはできないと思っております。学校司書を増やしていくことはもちろん重要なんですけども、それのみならず、子供たちが本に触れる環境をどのように整えていくのかは市としても考えなければならないことですので、教育委員会と連携しながら具体的な施策に結び付けていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それと、もう一点、家庭教育力についてのお話ですが、家庭内における環境の違いによって、子供の学びの意識であったりですか、それが将来に影響を及ぼしているということも実情としてあるのではと思っております。小樽市内においても、家庭教育においてはかなりバラつき、または、差があるというふうに感じておりますので、これから具体的に支援していく体制を改</p>

<p>(市 長)</p>	<p>めて整えなければならないと思っております。また、医療・福祉面において縦割りの指摘もありましたが、今、市では組織再編を行おうと動いているところでございます。これは時間がかかりそうで、29年度までを目途に議論している最中で、子供・子育てに関する組織についても議論の中心の一つとして課題となっております。保健所や福祉部、教育委員会ももちろんですが、子供に関わる取組をそれぞれで行っていて、やはり市民の皆様から見て分かりづらいということもありますので、それをどのような形をとることで市民の皆様にとって利便性が良くなるのか、それが今議論されている最中で、29年度末までに何とか形にしたいと思っております。</p> <p>具体的な家庭教育力の向上に向けては、まだまだ施策としては見いださきれていないところもあると思います。これも教育委員会と打ち合わせをしながら、来年度、再来年度に向けて一つひとつ具体的な施策に結び付けていければと思っております。</p>
<p>笹谷委員</p>	<p>せめて司書を2人から3人に…。一遍には無理なのでしょうけれども。</p>
<p>市 長</p>	<p>交付税措置についても、その点は財政部からいろいろ話は聞いてはいます。国としては、それを配分している、いわゆる予算措置していると言うのですが、その分、別で削られているのです。トータルの金額で市に入って来ているので、あまり変わっていない状況です。結果的にその措置された分を市や教育委員会でどう配分するかということなのですが、小樽市は司書の配置以外にこれまでに行き届いていなかったところがあるので、国の配分どおりには結果的に予算化できていないのが実情でございます。そのような中で、学校司書について、市の今後の教育委員会への予算配分の中でどのように配分するかは打ち合わせをしながらと思っています。現状では必ず「3人にできます」とは言えません。先ほど、スクールライブラリー便の話もありましたが、課題とされていた連携ということも含めていろいろと考えながら、学校図書館への対応ができるようにしていきたいと思っております。</p> <p>いずれにしましても、学校図書館で子供たちが利用される比率が高くなるほど、学力だけではなく、教育面としての向上に結びついていくのが実情だと思いますので、その可能性については探っていきたいと思っております。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>現状として、それぞれの学校で1年ごとに司書の配置を替えていって環境を向上させようとしているのですが、2人では全体の環境が揃うには時間がかかるので、なんとか早く読書環境を良くしたい。朝読書ですとかいろいろと取り組んでいますし、ライブラリー便などでも支援していただいているのですが、総量が不足しています。国では、読書についても5か年計画を作って、重点的に「読書を増やしていきましょう」という取組を推奨して</p>

<p>(教育長)</p>	<p>います。国も「その方針に沿って配置してほしい」「そこは国としての重点なので、市町村も国の方針について来てほしい」という言い方をしているものですから、応援していただきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>先ほど教育部長からも説明がありましたけれども、図書館が今年100周年を迎えました。それを機に様々なイベント等を行ったところございまして、図書館の職員としても多くの方々にもっと図書館、本に触れてほしいと意識を持っているところでございます。私もイベントのときに少し顔を出しまして、日中であったということもありましたが、子供たちが来ていないんですよ。今回のいくつかのイベントの中で、子供たちが関わるイベントがございましたけれども、そうしたイベント以外では、子供たちが思ったより来ていなくて、私としてはちょっと残念に思っていたんです。しかしながら、子供たちを惹きつけるようにと、図書館の職員は一生懸命に企画をされているんです。ですから、そこにも学校側と図書館との連携が不足していたのではないかと私は感じたところです。せっかくの機会に本を楽しんでもらおうと企画した内容であったにも関わらず、実際、子供たちにはあまり触れられていないということは、非常にもったいないことで少し残念に思っています。これからは図書館からも学校図書館の向上に向けて、関わりやアドバイスも含めて連携をより強化することが重要なのではないかと考えており、そういう視点においてもいろいろと打ち合わせていければと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>私も、本年開催された事業を見させていただきましたけれども、集まった人数がちっと寂しかったと思います。その辺のことをどのように家庭教育の分野と子育ての課題へとつないでいくか、そういう意味でも逆に、先ほど笹谷委員がおっしゃった福祉や医療などの窓口対応などの中で、「こういう行事がありますよ」などとお知らせしていくような取組もこれから必要なのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>子供たちが本を好きになる、または、嫌いになるという、その印象ができあがる時期というのは幼少期にあると私は思っております。高学年や中学生になって「本を読みなさい」と言われると、押し付けに感じられ、嫌になる。やはり小さい頃に読書に対してよい印象を持てるようになれば、それは将来につながっていくのではと思っています。</p> <p>先ほど特に医療、福祉面において行政内に縦割りがあのではないかと御指摘がありましたが、幼少期ということでは、教育委員会としては関わる時期が違う部分があるかもしれませんが、幼少期から読書に触れるような機会を一緒に連携しながら行うことによって、最終的に小学校、中学校での読書</p>

<p>(市長)</p>	<p>習慣へと結びつく可能性がありますから、これからは、特に福祉、医療と、教育委員会との連携を働きかけていきたいと思ひます。</p> <p>今お話ししたことを基に来年度に向けていろいろと取り組んでいきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。</p> <p>では、次に小澤委員からお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>小澤委員</p>	<p>私からはICT教育の推進、それから、ALTの件、もう一つ、学校の備品・消耗品などのことについて、お話ししたいと思ひます。</p> <p>はじめに、ICT教育の推進についてですけれども、今年度、小学校1年生から3年生までの普通学級に大型テレビを配備いただきました。どのように使われているのか現状を紹介しますと、例えば、大型テレビに必ず「今日はこんな勉強をします」と課題を映し出し、そうすると、その課題を書く黒板のスペースが空き、広く使えるということになります。それで、子供たちが発表すると、その発言を黒板に整理していきながら、子供同士の発表内容を関係づけるなどして授業のまとめに結び付けていく、そのような活動の様子を拝見しました。</p> <p>それから、より積極的な活用になりますと、例えば、子供たちが発表するときに、「この問題について解かる人？」と手挙げた人に発表させるのではなく、「まずあなたの考えをノートに書きなさい」と言って先生が指示し、子供はノートに書いた考えを実物投影機で映し出して、それを基に説明をさせて、子供たちの意見交流を進めるという授業が行われていました。よく、小学校の授業で、特に低学年の子は、「これこれ解かった人？」と聞かれて「ハイ」と手挙げますけれど、先生に当てられると「忘れました」ということがあるのですが、私はその様子を何度も見ながら、決してその子は忘れたのではなくて、はっと思いついたんですけれど、いざ発表となったら言葉にならないのだと思ひました。それは子供の意欲を次に結びつけることになりませんので、まずはノートに書いてそれを投影機で映して発表すると、非常に大きな効果があると思ひます。</p> <p>それから、子供が発表する際に、その発表の根拠となっている文書、図、グラフなどに、先生が教科書にマーカーを引きながら、その様子を実物投影機で見せていました。そうすると、子供たちは、その発表がどのような内容を根拠としているのか、先生の動きで学びとっていきます。そのことによって子供たちがデータをしっかり読み取る力をつけていくという授業を拝見しました。</p> <p>これらの機器の配備によって、子供たちが、先生や友達が言った事を耳から聞いて覚えるということに加えて、その内容を大型テレビの画面により目から情報を得られるというような学習が可能になりますので、子供たちの学力の向上に役に立つと実感しています。</p>

(小澤委員)

これからは、子供たちには思考力、判断力、表現力を高めてもらい、自分の考えを筋道立てて説明できる力を高めていくことが、課題とされています。そのために有効な指導方法として、頭の中にある抽象的な考えをすぐに発表するのではなく、それらをノートに書き出し、それを基にして発表することが重要であるとされています。実物投影機を使うことで、子供たちは自分の頭にある混沌としているものを発表するのではなく、一旦書いたものを順を追って発表することになります。また次には、子供たちは自分が考えた何かを話すだけではなく、そのことを話すために、何を基にしてそのように考えて自分としての考えを述べたのか、そのことを意識して発表することになりますし、当然、先生もそういう指導になります。

それは、聞く側の子供たちにとっても同様に「なるほど、こういうことを根拠にして、こういう展開の中で考えたのか」ということを学んでいくことになります。

こういう学習過程で子供たちは、自分の考えていることの順序立てですとか関係性をきちんと考えることになりますし、それが基になって筋道を立てて発表すると自分自身のノート作りもそういうふうになっていきます。

そういう点で非常に実物投影機と大型テレビが効果的であると思っています。今まで述べたことは小学校の低学年からの積み重ねで、学年が上がるほど論理性がより備わってきます。具体性を持った考えが実物投影機を使って大型テレビに映ることは非常に効果的であるため、次の2点について、ICT機器の配備充実をお願いしたいと思っています。

一つ目は各学級への配備、小学校の1年から3年までの普通学級に実物投影機を配備していただくこと。それから、小学校の特別支援学級に、さらには中学校の各学級への大型テレビと実物投影機の配備もお願いしたいと思っています。学んだことを確実に身につけ考える力を高めるためには、目で見えて耳で聞いて考える授業というのが非常に重要だと思います。そのために、低学年のうちから指導の充実が必要です。

また、特別支援学級の子供たちは教科の学習や自立活動などで、映像と言葉を結びつけながら自分の行動に移していくことが課題になっていくと思いますので、その点でも効果的であり活用ができます。

中学校での配備については、これも論理性を高めていくためには非常に大事だと思いますが、今年、花園小学校で各学校の研究内容の発表を行った際、これからお話するような事例がありまして早期の配備が必要であると強く思いました。昨年、高島小学校で実物投影機を使った学習活動を進めるための研究会がありました。中学校の先生がその研究会に参加して、実物投影機の有用性を知り、利用したいと思ったそうです。しかし、中学校には配備されていません。それでも、その先生は中学校の子供たちの学ぶ力を引き出したい、高めたいということで、自前で購入して現在使っているというの

(小澤委員)

です。中学校でも小学校でも同様の教育効果が期待できますし、このような先生の願いに何とか応えてあげたいと思って、今日、この話を紹介させていただきました。

それから、2点目ですが、特別教室への配備です。理科室や家庭科室、体育館でも利用できるような配備を工夫していただきたいということです。

理科の実験に関わる細かな機器の扱い方ですとか、家庭科や音楽、図画工作・美術などでもそれぞれの技法を指導する授業で効果的に活用できると思いますので、配備が必要だと考えております。

次にALTの増員についてです。現状としましては、今年度からALTを2名増員し、4名になりまして、全中学校に配置するとともに、4校を中学校の英語推進校にして英語教育の充実に取り組んでいます。今後の方向性として、来年度さらにALTを2名増員して6名にさせていただきますと、全中学校で隔週での派遣が可能となって、本市の英語教育推進に一層の効果があると思いますので、その点をお願いいたします。

最後になりますが、学校の備品と消耗品について現状と課題をお話いたします。教育委員会では、小学校の児童のイスの劣化がひどいと訴えられることが多いことに気づきました。机の天板やイスの座面は損傷も見られましたが、多くが修理されていました。劣化がひどいのはイスの枠の鉄の部分ですが、その塗装が剥げて、長期休業明けになると錆びがでてしまって、その部分を持つと手が茶色になるということです。そこで、その小学校では始業式前に教職員で、その児童用のイスと机の錆を落として始業式を迎えているということでした。このような状況が学期ごとに繰り返されているということは、平時の通学時にも、日々ごく僅かな量ですが、児童の手や衣服で錆がぬぐわれていることになると思います。鉄分ですので、健康にもものすごく害があるということではないと思いますが、今後の方向性として、できるだけ早くイスの更新が必要であると感じました。

それから、学校では学力向上のための教育活動に、印刷のための用紙などの消耗品が多く使用され、今年度も予算措置をしていただいておりますが、なお不足している現状となっています。毎日のように行っているドリル学習など、地道な取組が全国学力学習調査の結果にも表れてきていますので、さらに小樽の子供たちの学力向上を図っていくために、消耗品の増額が課題となっていることをお伝えしたいと思います。

私からは以上です。

市長

まず、ICT教育においては、教育関係者、教員の方々から非常に子供たちの教育の向上に結びつくとの要望で今進めているところでございます。御存知のように、当初配備させていただいていた経緯は、「地方創生」の流れで国の補助があり、予算措置させていただいたところでございます。今年度

(市長)

は、それがありませんので、市が単独で予算化し、大型テレビのみでしたけれども配備したところでございます。今後においては、財政状況などいろいろありますけれども、計画的に進めていきたいと思っております。各学級全ての配備、特別支援学級、さらに中学校、そして、特別教室にもというお話でありましたが、来年度に全てということには残念ながらならない状況でございますので、これについても教育委員会と話を詰めさせていただいて、少しずつでも、配備に向けて取り組んでいきたいと思っております。

2点目のALTの増員に関しては、今小樽においては、観光という枠組みではありますが、相当な数の海外からの観光客が来られています。今これからボーダーレスの時代になってきており、多くの国の方々と触れる、または、将来、社会に出たときにそれが仕事に結びついたりすることも考えられますので、これは私としても力を入れたいという思いから、今回4名に増員しております。

英語を話せるか話せないかの以前に、幼い頃から他の国の人たちに一切触れていないと、いざその方々と触れたときに、「言葉が通じるのだろうか」という恐怖心であったり、通じなかったりした場合の恥ずかしさであったり、そのようなことからなかなか踏み込まずに、結果、そういうことに触れないまま社会に出て、そういう仕事と関わりない世界で生きていったりということにつながりかねないということを非常に実感しているところでございます。教育の枠組みの中で、まず、他の国の人たちと接する機会というものが必要なことだと思っておりますので、全校において、他の国の方々が関わるようにすることが大切だと思しまして4名にさせていただき、まずはその効果を見てから「次を」と思っているところでございます。

「6名で隔週で」ということは、私もそうしたいところではございますが、財政状況を見定めながら、または現状の効果を見定めながら、と思っております。来年以降すぐに4、6、8というのはなり得ないと思っておりますが、他都市に先行してやってまいりたいという思いもありますから、教育効果であったり、それに伴って子供たちが海外の方々と接する際に伴う疎外感が薄れるですとか、そういうことが見えてくるようであれば、先々、増員も含めて考えていかなければいけないと思っております。

ちなみに、小樽市が姉妹都市の提携を結んでいるのは、今年50周年のロシアのナホトカ、英語圏のニュージーランド・ダニーデンは今年36年目になります。韓国のソウル・江西区は今年6年目です。私としては英語だけでなく、せめて姉妹都市提携を結んでいる街の言葉を子供たちに触れられる機会を作れないかと思っております。将来的には、英語以外にロシア語、韓国語を学校教育の中に絡められないかと思っておりますので、ALTの増員を

<p>(市長)</p>	<p>考える場合においては、英語圏のみならず、違う言語も念頭に置きたいと考えております。</p> <p>そして、備品のことですが、先日、別件の話をしていた時、イス・机の現状について私自身も耳にしたところでございます。先ほどの消耗品の話も含めて、現行での教育委員会としての予算があまり大きくないので、その予算の中では行き届いていない実情があるということで、かなり長い間改善が図られていないと改めて知らされたところでございます。教育委員会では、消耗品を含めたイスや机の劣化状況を全て調査されたと聞いておりますので、それに基づき、その予算が組めるかどうか検討していきたいと考えております。</p> <p>しかし残念ながら、財政状況がどちらかというと悪化しております。一つお話をさせていただきますと、国勢調査が5年に一回行われますが、昨年行われました。その人口動態の結果によりまして地方交付税が算定され、人口が減っていると減額されます。そのことを踏まえて、来年度の予算編成に先立って、地方交付税の試算を見て愕然としました。今年度から4億円減っています。また5年後調査をして人口が減ったら、また減額になります。国に対しても、そういう算定方法は困ると言い続けなければならないと思っておりますが、実情がそういう状態です。私としては財政を好転させるために、考え方も転換していかなければならないと思っております。私は教育力の向上は人口減に対して大きな歯止めの要素の一つだと思っておりますので、ICT教育のための機器の配備なども仕掛けなければならないのですが、普段から使われている機材、イスとか机、その他日常使われているものの老朽化を今回改めて知らされたところなので、それらのバランスについてもしっかりと考えて予算配分をしていきたいと思っております。</p> <p>私からは以上でございますが、皆さんからその点について何かあれば願います。</p>
<p>小澤委員</p>	<p>ICT機器については、他の自治体では、むしろ今はデジタル教科書や電子黒板などの、より高機能なものが使われています。しかし、今お話しましたICT機器の中でも大型テレビと実物投影機は非常に使い勝手がよく、幅広く使われていますので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。</p> <p>併せて、ALTの増員ですが、今、中学校の英語の授業で、日本人教師が全て英語でやっている授業がありますから、指導力の向上ということにプラスして、市長がおっしゃった「外国人と触れ合う中でコミュニケーション能力を高める」ということが非常に重要であると思っておりますので、ぜひ御検討ください。</p>

<p>市長</p>	<p>やはり先生たちが子供たちに対して教えやすい環境を整えることが非常に重要であると思っております。先ほどの話ですけれど、タブレットとか電子黒板とか様々なものがたくさんあると思うんですが、その中で本当に一番効果があるのが何なのかということを生方から御提案いただきながら配備していくことが重要だと思っております。先駆的だから何でも導入すればよいというわけではないと思っており、まず基本はどこからと考えたときに、大型テレビとか実物投影機のほうが有効だということで、まずはそこをしっかりと整えることが重要だと思っております。また、海外の方と触れる機会というものは子供たちにとって非常に重要なことだと思っております。その中でALTだけではなくて、日本人の英語教師にも活躍してもらわなければならないと思っております。これからは「話す、聞く」がより大切になっていくと思っており、小学校でも英語教育の導入が進められておりますけれど、小学校には英語の専門教師というのが基本的に配置されていないという実情があります。その中で、中学校の英語教員はもちろんですけれど、ALTの方々と小学校の教員と連携して、有効な英語教育を小学校のときから行うことによって、ALTに触れたときに、さらに効果が上がるということもあるかと思っておりますので、ALTの方々と小学校、中学校教員との連携をより高めていくところから始めてほしいと私は思っているところでございます。しかしながら、先ほど話したように、ALTの増員については念頭にはありますので、今の教育効果を見定めながら、そのタイミングを見計らっていきたいと思っております。</p> <p>では、次は荒田委員から御意見いただければと思います。</p>
<p>荒田委員</p>	<p>私からはふるさと教育の推進と体験的な学習、社会教育施設の整備の関係について、お話をさせていただきます。</p> <p>1点目のふるさと教育の推進の取組については、まずは、小中学生による「おたる潮まつり」の潮ねりこみの参加や、教職員の方々が参加しております小樽の歴史・文化等を学ぶ「ふるさと教育研修講座」、子供たちが学んでおります「松前神楽」、「向井流水法」、「越後踊り」など地域の伝統文化を継承する取組がございますが、今日はその中から私は潮まつりの潮ねりこみについてお話をさせていただきたいと思っております。</p> <p>森井市長が様々なところで挨拶をされる機会に、本年、第50回を迎えたおたる潮まつりについて、各方面で触れていただいたと思います。また、潮まつり実行委員会の皆様の御尽力もいただき、潮音頭の振付けを学ぶ授業を小学校19校、中学校12校で実施したこともあり、ここ数年少しずつ増えている子供たちの参加でしたが、初めて、小中学校全校参加が実現しました。小樽の一番大きなお祭りにこうして保護者や地域の方々と参加した経験は子供たちの夏のいい思い出になるばかりではなく、ふるさと小樽を体感で</p>

(荒田委員)

きる大変貴重な機会であったと思います。一昔前までは、各町内会などで行われていた盆踊りで踊る機会があった潮音頭でしたが、今では、踊ったことがない子のほうが多いのではないかと考えております。そうした中、潮音頭の振付けを学ぶ授業が小中学校で行われたことは、ふるさと教育推進にとって、大変意義のあるものであったと思いますが、この授業を行っていただいた講師の方々に支払われた謝礼については、潮まつり実行委員会が負担されていたということでもあります。そうしたことも含め、潮ねりこみへの小中学校全校参加が、潮まつりが第50回の節目であったからという今年1回限りの取組で終わるのではなく、今後もつないでいけるように、ふるさと教育に対する御支援をよろしくお願ひしたいと考えております。郷土愛あふれる人づくりのためにも、また、小樽市の事業であります「おたる潮まつり」を通して地域の活力を創造していくためにも、来年度以降も小中学校の全校参加が継続され定着されていくことを強くお願いするところでございます。

それから2点目でございますが、各小中学校での体験的な学習についてでございます。各小中学校では、校外学習等の助成への予算が不足しており、学校側が体験的な学習を充実させようとしてもバス代などの捻出が難しく、十分に体験的な学習が実施できていないという状況があります。また、通学使用時以外のスクールバスの活用のみでは難しいという課題もございます。

一方、地域の方々に学校にお越しいただいて体験的な学習を行う場合にも、費用が掛かるものについては、お越しいただく方の御好意や必要経費を保護者の方々に御負担いただいた上で実施できているという話をお聞きしたことがございます。この体験的な学習に関する費用面の問題については、学校からの要望が強い事項と聞いております。保護者の負担軽減や学校が行う体験的な学習を充実させていくため、また、学校が体験的な学習を積極的に取り組むことができる環境づくりを下支えしていく上でも、交通手段の確保などの御支援をしていただきたいと思います。

それから3点目ですけれども、社会教育施設の整備についてです。総合体育館、手宮陸上競技場など多くの体育施設が老朽化による改修が必要になってきております。また、特に、図書館のエレベータの改修や文学館、美術館の照明器具や雨漏りについては、安全確保のための修繕などが早急に必要であると伺っております。安全確保というのは最優先されるべきことだと思いますし、必要に応じて整備されてきているものと思いますけれども、必要に迫られてということだけではなく、社会教育施設のどの施設を優先すべきであるかという計画的な予算配分も大切なことであると思います。ところが現状は、社会教育施設全般について、他の事項よりも後回しになっているのではないかと印象を持っております。たくさんの改修、修繕を必要とされる状況にあると思いますけれども、特に体育施設については数多くの施設について必要になってきていると伺っています。市民の健康の維持のためにも、あ

<p>(荒田委員)</p>	<p>るいは、医療費抑制のためにも、体育施設はもちろんのこと、社会教育施設の整備をより一層進めていただきたいと思います。</p> <p>以上3点についてお話をさせていただきました。</p>
<p>市長</p>	<p>まず1点目ですが、ふるさと教育の推進は私も非常に重要なことだと思っております。郷土愛というものは、地元で子供たちが小さい頃に感じた印象というものが生涯残るものだと思います。小樽は他の街と違って、非常に個性ある歴史的資源が多く残っておりますので、そういう意味では本年、先ほど説明があった向井流水法であったり、松前神楽であったり、伝統文化継承の取組が動き始めたところでございます。</p> <p>そのことのみならず、本年取り組みました潮ねりこみの体験は、私としては非常に大切なことだと思っておりますので、来年に向けても継続できるように取り組みたいと思っておりますし、また、踊りの講師をしていただいた藤間流の方々も含めて、また依頼していきたいと思っております。本年は50周年ということもあって、市としても予算をしっかりと組んで行ったことから、何とか対応できたかと思っておりますが、来年度以降、どういう風にしていくのかは考えなければならないと思っております。実行委員会で引き続きやっていただくのが、私としては、ありがたいと思っておりますけど、謝礼も含めてほとんど出せていないと聞いておりますから、市としてはそれも念頭に置きながら考えなければならないと思っております。</p> <p>また、今やっているふるさと教育の流れの中に乗せてしまうのか、今年のような別枠でずっと続けるのかも考えなければならないと思っております。</p> <p>今日初めてお話することですけど、潮音頭とともに潮太鼓も子供たちに体験していただくというのも、潮まつりを子供たちが関わって盛り上げていくという意味合いにおいては、いいのではと思います。これから、潮音頭、潮太鼓もモデル校指定をしていくのか、全体的な枠組みの中で体験させるのか、それについては、教育委員会と調整をさせていただきたいと思っております。</p> <p>私が今年、一番目の当たりにしたのは、学校全校参加もそうだったんですが、町内会と一緒に参加されている姿が非常に印象的でして、それが町内会の活気に結びついているように思いますし、また、学校と町内会、PTAと町内会、この連携にも非常にいい機会であったように見受けられるので、継続的にやっていけるようにすることが重要と思っております。</p> <p>二つ目の体験学習のことですが、私は推奨したいと思っておりますけれども、福祉バスのほか、教育委員会のバスと子供たちの体験学習、さらには部活動においてのバスの使い方なども含めて、市のバスのあり方自体をいろいろと考えているところです。また、バスを委託する場合、バスの事故があったから料金の改訂や、バス運転手が確保できないなどの問題もあり、委託料</p>

(市長)

がどんどん高騰しています。部活動の先生からも、市で所有しているバスを全然使えたことがないと、要望が非常に強く出てきますので、どういう運用の仕方がいいのかをずっと検討していますが、もう少し時間いただきたいと思っています。

私としては、体験学習は、ふるさと教育と同じで、この街の素材に子供たちが触れるいい機会になると思っています。自然体験の学習もそうです。また、例えば、職業体験、職人体験などで、この街で様々な職業などに組み込まれている人たちと接する機会にも貢献することで、子供たちが将来を決めたりするきっかけになる可能性があると思っていますので、今のバスの環境の改善を図って、その結果、教育委員会のほうでも、学校教育の中に体験学習を一層組み込んでやってもらいたいと思います。その改善、解決に向けて、今、一所懸命やっているところなので、もう少しお時間をいただければと思います。

それと、社会教育施設整備についてですけれども、後回しになっているのではないかというお話でしたが、現状としてほとんど整備がされていませんから、後回しになっていたのかもしれませんが、しかし、私の中では、優先順位が高いです。特に、教育という視点でも重要なのですけれども、今や小樽の歴史、文化、芸術が、観光資源になりつつあるので、社会教育施設を優先順位が高い位置で整備をしていかなければならないと思っています。

そういう中で、小樽市には古い施設が非常に多く、さらには、使わなくなったものが、ずっとそのままになっているものがたくさんあるのです。廃校になった学校もそうですし、第二病院も使われなくなってからそのまま、その他様々なものがございます。

そこで今、公共施設の総合管理計画を作っており、12月末でできあがる予定です。それによって、今までは、建物の除却には一般財源を充てなければいけなかったのですが、除却するためのお金を借りることができるようになります。そこで、除却も計画的に進められるようになるとともに、社会教育施設を含めて、市の施設については、街の状況や人口動態等も踏まえながら、統廃合など、これから長期的にしっかりと計画的に進めるために策定をします。その計画が策定されたら今度は、各部局で「施設の中で優先順位が高いのはどれなのか」という計画を作ってもらう予定なので、その中でも社会教育施設の中で優先して進めていくことになるであろう施設が出てくると思います。私は「後回しにはしない」と思いながら、今これから進めていくところでございますので、御理解をいただければと思っています。

ちなみに、社会教育施設とは言えないのですが、実際に先行して改修されるのが、旧日本郵船が文化財として先行して進む予定で、今、調整中です。これは結果的に教育施設としても重要なのですけれども、今、日本遺産登録に向けて動き始めているので、その拠点となる施設として調整し始めて

<p>(市長)</p>	<p>いるところで、文化庁との調整の下で進めて、うまくいけば、来年、再来年という形で動き始めるのかなとっておりますので、併せてお伝えさせていただきます。</p> <p>それでは常見委員に移りたいと思います。常見委員、よろしく願いいたします。</p>
<p>常見委員</p>	<p>私からは特別支援教育の充実についてですが、通級指導教室についてのことと特別支援教育支援員の待遇についてのお話をします。改めて申し上げますが、通級指導教室は、今、小樽では2か所の小学校と言語の通級指導教室を開設しています。もともと始まりは、主に、発音で言えば構音障害などの言語障害が中心でしたが、法改正によって、学習障害や注意欠陥多動障害などの児童・生徒も一緒に指導することになりました。その中で実際には通常学級に在籍しながら、そこで学べることも多々あります。例えば集団生活のルールですとか、周りの児童・生徒の交流ですとか、集団の中で話を聞いたり集中するような習慣というのは、通常の学級の中で得られるものもあると思いますが、そんな中で苦手な教科やルールについて、その部分を補う形で通級指導教室によって指導し、行き来ができるというのが、一番大きなメリットだろうと思います。</p> <p>そうなると、対応する場所の確保という問題があります。ちなみに小学校では、対象児童の104人に対して教員が7人、中学校で生徒が10人で教員が1人ですから、小学校の場合ですと、単純に言えば、1人の先生が15人を担当して、中学校では1人の先生が10人を担当しています。一方、比較は難しいと思いますが、特別支援教室の場合、ほぼ2人に対して1人の先生がついているという状況を考えると、きめ細かい対応が非常に難しいと思います。言語のことについてもそうですし、特性もいろいろありますから、対応の幅が広がっているという点で、先生も大変であります。さらには、通常学級の担任への支援、保護者への相談支援を担うこととなりますので、仕事は非常に多いです。そのため、発達障害などの状況に応じた細やかな指導が行えるような教室を新たに作って、それに対応する先生も増えていけば一番いいなと思っております。まずは、新規の教室の開設をお願いしたいということでもあります。</p> <p>二番目に特別支援教育支援員の待遇に関してですが、特別支援教育支援の仕事もかなり大変で、研修を経て就くということですが、簡単に申し上げると、支援を必要とする児童・生徒の身の回りのお世話、場合によっては、食事の介助をしたり、身支度の手伝いをしたり、衣服の着脱の介助を手伝ったりというものもありますし、学習支援という点でも、読み取りが困難な児童・生徒に対しては、読み上げを行ったり、書き取りが困難な児童・生徒に対しては代</p>

<p>(常見委員)</p>	<p>筆を行ったり、聞き取りが困難な児童・生徒に対しては、教員の話の繰り返して聞かせていくというようなこともあります。</p> <p>また、それだけではなく、教室間の移動であったり、健康や実技の際の安全の確保、それから大事なことはもう一つあります。周囲の児童・生徒の障害への理解を促進するような取組を含めて、非常に広いサポートをしているお仕事だと思いますけども、原則として30人おります。全て女性で、嘱託です。支援員の方はその中で27人、介助の方は中学校に3人いらっしゃいますが、支援員27人のうち、小学校には20名、中学校には7名います。</p> <p>問題は、この方たち、決して多いとは言えない人数であり、先ほど申し上げた学習障害、注意欠陥多動障害の子供さんの状況を考えますと、一番いいのは増員だろうと思いますが、現状としては、何よりも報酬について問題がありまして、現在、時給830円で働いていただいています。ところが、保険制度の改正がありまして、本年10月から嘱託員の月額の手料が、だいたい1万4千円台から1万6千円台が新たな負担となり、そのことを踏まえると、その時給でやっていくということが実際に難しい、辛いというところがあって、増員がないこの状況にあって、なかなか仕事を続けていくことが厳しいと言われてしまうことが絶えない状況にあります。やはり報酬をアップしなければならないと考えております。</p> <p>例えば、放課後児童クラブの支援員の方の時給は1,060円程度、それに比べるともう少し報酬を上げてもいいのではないかと考えておりますので、どうかその点を御検討いただきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>特別支援教育については、その導入時期が私の議員時代の頃だったので、非常に教員の間にも戸惑いがあったりとか、今までの流れとは違う教育を導入するということが、たくさんの議論がなされたと思っております。私としても、どのような対応がこれから必要なのか、正直に申し上げると実は見極めできていないです。基本的には、今、通常学級の中で一緒に授業を受けて、その後、いわゆる補完をするということで、サポートを別な枠組みの中で行っているということ、その方法自体がいいのかどうかは、まだ私としては理解できていないです。当時、導入はされましたが、それから今に至る取組に対しての検証が、実はよく分かっていないのです。私としては、通常学級で、言語障害、発達障害の子と一緒にやっていくことはいいことだと思っております。一方で、学校の先生達にとって、どうしてほしいのか、何が課題でどうしたらいいのかというお話が私自身把握できていません。先ほど、今、104名を7名でフォローしているということでしたが、その7名でフォローしたほうがいいのか、通常学級の中で何か別の支援をしたほうがいいのか、どう対応したらいいのか見えていないので、もう少し教</p>

(市 長)	<p>育委員会から現状についていろいろお話を受けた上で、来年、再来年の中で、どう対応したほうがいいのか見定めたいと思います。</p>
<p>常見委員</p>	<p>それに対して、統計として出ているものではありませんが、いろいろなところで聞くと、年々、通う中で向上しているのは間違いないと、それから、不得意な部分を通級教室で細やかに指導することで、通常教室に戻ったときに、ついていけるような状態になったというケースも多々あるということは聞いております。</p>
<p>市 長</p>	<p>私も制度としてはいい仕組みだと思っはいますが、導入がなされてからだいたい10年くらいなと思うのですが、その間、例えばいろいろな課題であったり、成果であったりが出て来ている時期だと思うので、教育委員会から実情等を聞きながら、改善を図れることについては対応していきたいと思っています。</p> <p>また、特別支援員の待遇についても、まだ私は答えを持っていないのですが、非常に重要な立場で活動していただいていると思います。極端に言えば、嘱託などではなくて、そういう職種として採用して配置するのが本来の姿かもしれないとも思うのです。ただ、残念ながら、財政状況が厳しい中で、報酬をアップしていくということになかなか手をつけられていない状況でございます。特別支援員の取組に対して、重要度というものを理解はしているのですけれども、教育予算にも限りがある中で、それを優先する分、どうしても他の部分の予算を削らざるを得ないという事態になりかねないという心配があります。私としては、もしそれをしっかりとやっていくのであれば、他の教育予算を削ってそこに充てるのではなく、そのことに対しては成果が上がっているので、それも教育予算として上げて、最終的に教育予算全体としては大きくなったという形の中で充てていかなければいけないことだと思うのです。</p> <p>でも、現状はそうはいかない事実がありますから、残念ながら、すぐには対応できません。それは先に言わざるを得ないと思っています。</p> <p>その中でどう対応していくのかですが、今までは、学校の適正配置を進めていく中で、学校新設や、それに伴う整備を併せて行ってきており、ハードが先行して教育予算は充てられてきました。これは、これからも続けていかなければならないのですが、私としては、教育予算は基本的にソフトだと思っはいて、ハードがある程度落ち着いてきた中で、これからソフト面においてソフトしていく時期がもうすぐ来るのではと思っはっています。ソフトに切り替えていく中で取組も向上させていく、それが今日お話いただいたことももちろんそうですし、教員自身が研修したり、学んでいくための予算化をしていくなど、教員の方々の指導力の向上とともにモチベーション向上に向け</p>

<p>(市 長)</p>	<p>た取組が非常に大事だと思っています。その流れの中にこの特別支援員の待遇も念頭に置いて、将来的にその改善を図っていきたくとしか、今は答えられないと思っています。歯切れの悪い返事で恐縮ですが、何かありましたら、いかがですか？</p>
<p>教育長</p>	<p>補足をさせていただきます。通級指導教室の言語教室の件ですけれども、例えば発達障害の子のために教室を新設したいという話は、そんなに驚くような経費がかかるとは思っていないのです。教員の配置だとか人件費、他の経費も含めて、道教委で全部面倒みてくれます。必要なのは、若干の検査器具、つまり、障害を抱えたお子さんたちがいろんな検査をしながら指導を受けていくためのものと、教材くらいで、そんなに心配はしていないのです。</p> <p>一番心配なのは、特別支援員を確保できないということ、あまりにも報酬が安くて確保できていないという現状があります。その報酬から社会保険料を払ってということになると、働いたお金が保険料に消えていくという形になってしまうので、仕事の中身からいうと、もう少しだけ上げてもらえないだろうかというのが現状です。だから、3月になると、「もうこれ以上は勘弁してください」という感じになりかけているので、そこは何とか子供たちのためにも食い止めなければならないという悲壮感が現実としてあるということでございます。</p>
<p>市 長</p>	<p>その現状を踏まえまして、改めて教育委員会と打ち合わせをしてまいりたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>では、教育長からも、今日のお話を受けての総括をお願いしたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>今日は、教育委員さんが考えていることを中心に意見を出していただきました。普段話していることはもっと多岐に渡っており、もっとたくさんの要望をいただいておりますが、今回はこれだけに絞り込んでいただきました。</p> <p>笹谷委員からは「学校図書館の充実」ということで、市長もおっしゃっていましたが、学力向上を進めていく中での原点として、子供たちの読書環境を充実させていくということが大事になりますので、何とか支援していただきたいという要望趣旨でございます。それから、学校図書館司書ですが、これは本当に効果が数字にも表れております。私としても、非常に大切なことと捉えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>「家庭教育」の関係ですけれども、家庭教育も子育ての基本、原点になる部分でございますので、その面からも非常に重要だと思います。例えば、健康との関係で言えば、検診時に家庭教育に関する情報を提供していくとか、福祉と連携しながら貧困家庭への家庭教育の支援など、そういった分野でタッ</p>

(教育長)

グを組んでいけば、一定の成果を得られるのではないかとこのころがあります。しかしながら、補助金は縦割り、仕事も縦割りという中で、なかなか難しい状況ではありますが、教育委員会としても、そこは労を厭わないので、市長部局にもぜひ参画をしていただきたいということでございます。

それから、「ICT教育の推進」、これも国が力を入れて、今、4か年計画で進めていて、交付税の単位表では5千万円を超える金額が来ている事になっております。そういう中で、国は推奨しており、次期学習指導要領においてもICT教育の重要性が増してくるので、速度を上げていかなければ、そのレベルに達していかない状況がございますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

A L Tにつきましても、財源不足に対して、宝くじ交付金などを充てて、持ち出しがないような形で措置ができたということでございますので、今後もそういう措置ができる状況でありましたら、必要性は認めていただいていると思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、「ふるさと教育の推進」ですが、実行委員会からの厚意・協力をいただき、子供たちに潮音頭の踊りの指導をしていただきました。今年50周年が過ぎて、来年、協賛金などがかなり厳しい状況になろうかと思ひます。そういった中で、今年と同じようなことをしていただくということになると、実行委員会にかなり負担をかけてしまうこととなります。未来永劫ずっと続けるというのは難しいと思ひますが、指導者の育成も併せてやっていくとか、そういうことも含めて潮音頭の支援をお願ひしたい。せっかく全校参加という効果を上げられたということで、それを終わらせたくないという気持ちがありますから、いろいろと知恵を絞っていく必要があるのではないかとと思ひますので、支援をよろしくお願ひします。

それから、「体験的な学習の充実」ですが、現在、スキー学習にしても、他の体験学習でも、保護者の負担をいただきながら実施しているのですが、市長がおっしゃっていたように、バス代などが非常に高騰しておりまして、現状としては、半分以上は保護者に負担していただき実施している状況でございます。義務教育の中での学習でありますし、子育て環境ということからも教育にかかる負担を軽減するということが大切だと思ひますので、私達もぜひ体験的な学習を充実したいですし、これについては要望もたくさんいただいております。そういう意味で、お力をお借りしたいと思ひます。

「社会教育施設の整備」の件ですが、市長からもその必要性の高さというものをお話いただきましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。やはり補修するところが現実的には追いついていないということもあって、大きく壊れるかもしれないという爆弾を抱えているところがたくさんあるのです。ボイラーなどいろいろなものが、今にも壊れそうだという状況です。今、修理・補修すればそんなに費用がかからないというものでも、壊れてしまっ

<p>(教育長)</p>	<p>らでなければ予算がつかないという状況にあります。ぜひこの点を踏まえて計画的に補修をお願いしたいと思います。</p> <p>そして、「特別支援教育支援員」です。特に今年、差別解消法が施行され、子供たちを市内で支援していく重要性というのは増えています。発達障害のある子供たちも、実際にはある程度、言語学級に通っているという実態があります。そういう中での非常に要望の強いお話です。</p> <p>最後の総括になりますが、各地方都市の中で教育にかかる予算の割合が一番低いのが小樽市です。金額ではなく、割合ですね。今まで財政状況が大変厳しいということで、実際、学校運営費についても厳しい時代を過ごしてきました。そういう中で、市長もいろいろな場で子育てを重視していくと発言されていて、いろいろと障害があることは十分理解していますが、ぜひ少しでも教育予算の割合を上げていただくということを、委員の総意として伺ってきましたので、ぜひ実現をしていただきたく、よろしくお願ひします。もちろん教育委員会も協力するつもりでありますので、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず、教育力の向上については、私も公約で掲げており、非常に重要度が高いと思っております。これは私自身も実現させていく思いでこの役目に就いております。御存知のように、もともと行政の長は教育委員会の取組に対して、基本的には介入しないということが、これまでの流れだったと思えます。しかしながら今や、国の流れが変わりまして、このような機会も含めて、行政がしっかり責任を持って教育委員会と連携して取り組んでいくという流れになりましたので、私としては非常にありがたい流れになったと感じているところでございます。</p> <p>その中で、今日、御提案いただいた皆様の思いは、私自身も重ねて思っているところでございますので、強化に向けて取り組んでいく思いを持っております。</p> <p>その中で、「ふるさと教育」に関しては、先ほど申し上げましたように、既に事業化された三つの伝統文化のほかに、いわゆる潮ねりこみの潮音頭の取組なども、これから教育委員会と連携して事業化に向けて取り組む必要があると思っているところでございます。</p> <p>また、それだけではなく、先ほどの体験学習の話もそうですけど、小樽の職人さんや職業なども体験させたい。それはバスの課題もありますから、これからバスの運用のあり方を考え直していく際には、教育委員会だけではなく市全体として考えようと思っております。</p> <p>また、私は、スポーツ選手との交流を推奨しております。実は今年、エスポラーダというフットサルの選手の方々に来ていただいて、小学校3校に出</p>

(市長)

向いていただいております。実は、手弁当で来てもらっておりますが、これも制度化すべきと思っております。しかも、これはエスポラーダだけではなく、バスケットではレバンガというチーム、サッカーはコンサドーレ、野球は御存知のように日ハムがありますが、それも今の状況ですと、手弁当で来ていただくこととなります。しかし、プロ選手に子供たちの指導に来ていただくことについては、少なからず、報酬というものも考えなければならないことですので、これをしっかりと制度化して、進んでこの街に来ていただけるような環境づくりをしていきたいと思っております。エスポラーダとレバンガについては、しっかりとした制度ができれば、全校に対しては無理でも、希望校については来年度から対応ができる可能性があると思います。日ハムについては違う形になる可能性がありますけども、関わりを持ってやっていけるのかなと思っておりますが、まず環境づくりが大事だと思いますので、それについても皆様からいろいろと御意見や御提言をいただけたら、ありがたいと思います。

また、今日お話いただいた以外に私が進めたいと思っているのが、教育大、さらに銭函の能開大との連携をしていきたいと思っております。特に教育大は教育機関の中心であります。今、教育委員会としては、秋田の大学から来ていただいていると思います。それはこれからも続けていきたいと思っております。身近にある北海道教育大学は北海道の教育機関の中核です。そこにある知的財産をいかに小樽に持って来れるかを含めて、いろいろとこれから打ち合わせをして具体的な連携を図れたらと思っております。

また、銭函に能開大がありながら、今はなかなか地域の子供たち、小樽の子供たちとの関わりが薄いのですが、将来、地元にある学校へ行って地元で活躍できるような環境を整えたいという思いもあって、推奨していきたいと思っております。

私としては教育力の向上に向けて、特にこの街で生まれた子供が、この街で育ち、この街で学んで、この街で活躍する環境づくりを、行政としてはしっかりと取り組んでいくことが大切だと思っておりますので、今日のお話以外にも具体的に一つひとつ取り組めたらと思っております。

私はこうした取組が、結果的に人口減の歯止めにも結びつくと思っております。状況によっては、人口増に貢献できる内容になる、つまり、教育だけの話ではなく、街全体としての影響にもつながると思っております。住みよい環境、または、この街の親御さんにとって育てやすい環境などにもつながっていくと思っておりますし、さらに訪れる方々を魅了する環境にも結びつくのではないかと考えております。

先ほど日本遺産の話をしていただきましたが、今、歴史文化基本構想は教育委員会を中心に作成していただいておりますけども、この取組は最終的には、多くの人たちを魅了するこの街の素材を外へ向けて提示していく、P

<p>(市長)</p>	<p>Rしていく流れになっていくと思いますので、私自身としては、教育委員の皆様がこのように一生懸命取り組んでいく結果は、教育のみならず、小樽市内の様々なところへいい影響を与えていくのかなと期待をしております。</p> <p>そのため、今日お話いただいたことはもちろんではありますが、子育て世代の方だけではなく、この街に住んでいる方々に対して、または、小樽を訪れる方々に対して、プラスの影響になるような流れになっていくことを念頭に置いていただいて、これからの教育委員としての取組に、皆様が持っているらっしゃる忌憚のない御意見、御提言を加えていただけたら、私としては非常に心強く思います。ぜひこれからも、特に常見委員はこれからでございますので、お力添えをいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>では、まだまだ課題は山積しているところではありますが、多くの可能性を秘めているということでもあります。ぜひ、それが花開くように取り組んでいきたいと思っておりますので、これからも市長部局と教育委員会とが連携し、その中で、具体的に形になっていけば、と思っておりますので、重ね重ねではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、平成28年度第1回小樽市総合教育会議はこれもちまして終了いたします。長い時間にわたり、誠にありがとうございました。</p>
-------------	--